

広島市歯科医師会だより

一般社団法人広島市歯科医師会

第 102 号

(H27.10.15)

今月のトピックス

クリスマスパーティのお知らせ	1 ページ
執行部より	
特集 第 21 回 会館建設にかかわる現況報告 その 9	2 ページ
行事報告	
平成 27 年度 第 1 回広島市医療安全推進協議会	2 ページ
3 地区担当理事対象の広島市民病院入院支援室事前説明会	3 ページ
支部だより	
中区支部	3 ページ
東区支部	5 ページ
南区支部	6 ページ
西区支部	7 ページ
各部からの報告	
広報部	8 ページ
FM ちゅーピー	14 ページ
9 月定例理事会報告	15 ページ

「広島市歯科医師会だより」についてのアンケート、を実施いたします。同封いたしましたアンケート用紙にお答えいただき、FAXにて **10月24(土)** までにご返送の程よろしくお願い申し上げます。

クリスマスパーティのご案内

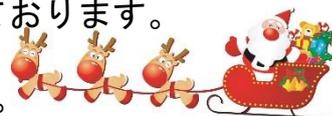
今年**は武田鉄矢さん率いる海援隊さん！！**

例年通りお楽しみ抽選会も豪華景品を取り揃えてお待ちしております。

ご家族、スタッフの方々と是非お越し下さい。

巻末にチラシを同封しておりますのでご覧下さい。

申し込み方法につきましては後日お知らせいたします。



日 時：平成 27 年 12 月 19 日（土）午後 4 時 30 分

場 所：ANA クラウンプラザホテル広島

執行部より

特集 広島市歯科医師会事務局の今後を考える。
—広島県歯科医師会会館建設計画を受けて—

第21回 会館建設にかかわる現況報告 その9

—市歯会事務局レイアウト等の検討状況について—

はじめに

特集 広島市歯科医師会事務局の今後を考える 第21回となります。

県歯会会館の設計図面については、かなり煮詰まってきたり、現在は最終費用額の積算の段階にあるようです。これを踏まえながら市歯会においても、事務局の最終レイアウトの検討にはいりました。

今回はその現状についてご報告いたします。

(1) 県歯会会館建設実行委員会実施状況について

9月18日(金)、第5回会館建設実行委員会・第16回設計打ち合わせが、10月2日(金)、第6回会館建設実行委員会・第17回設計打ち合わせが行われております。ここではこれまでに引き続いて、細かな部分の設計や仕様について修正が重ねられております。市歯会としても逐次修正を加えています。

現在、これに合わせて最終建築費用の積算が引き続き行われております。

(2) 市歯会レイアウトの検討

市歯会事務局の図面がほぼ決定したことを受けて、事務局、会議室の机・椅子、書庫のラック等についての仕様検討に入りました。

レイアウトについて業者からの提案・見積もりを受けながら検討しているところです。

(3) 市歯会事務局移転に向けた準備

以前にもご報告しましたが、会館完成後の事務局引っ越しに向けて、元事務局の不要物処理や、引っ越しに向けた整理について、それぞれ担当理事を決め作業を開始しました。

引っ越しはまだまだ先になりますが、これらの作業には一部費用がかかりますので、県歯会に支払う区分所有費用以外に必要なもろもろの経費を総合的に見積もりも目的で早めの対応を行っております。

(4) おわりに

元事務局の不要物の整理に際し、使用可能なものなどについては、会員の皆様にだよりなどを通じて譲渡等のお知らせをすることも検討しております。だよりのチェックをお願いいたします。

行事報告

平成27年度第1回広島市医療安全対策推進協議会

日時：9月17日(木)午後1時30分～午後3時30分

場所：広島市役所本庁舎14階「第7会議室」

広島市医療安全対策推進協議会が標記のとおり開催された。広島市医療安全支援センターで受けた市民からの相談事例について報告、協議が行われた。市民からの相談は年々増加してきており、主な相談内容として医師等の

接遇、診療内容、病気内容、医療過誤、治療費、制度、医療関係法と多岐にわたり、現在の情報提供の在り方を整理すると共に、意見として相談内容を対象医療機関にフィードバックし、医療機関における対応の改善、見直

しのキッカケづくりをしてほしい、またすべての相談内容を医師会等の関係団体に情報提供してもらいたいなど活発な意見交換が行わ

れた。当会から本山智得総務部理事が出席した。

3 地区担当理事対象の広島市民病院入院支援室事前説明会

日時：10月6日(火)午後7時30分

場所：市歯会館2階「会議室」

広島市立広島市民病院が入院支援室を新設し8月より稼働させるにあたり、入院支援室がかかりつけの歯科医、もしくは周術期における口腔管理機能が実施可能な歯科医療機関に該当患者をスムーズに紹介することを目的に平成27年7月24日に広島市歯会圏域の会員対象に行った。

現在まで、順調に進んでいるも、まだまだ協力歯科医療機関数が十分とはいえない状況であるため、3地区(安佐、安芸、佐伯)会員においても協力歯科医療機関の増大を進めることを目的に標記の事前説明会を行った。

澤木康一広島市民病院歯科・口腔外科部長が「入院支援室における周術期口腔ケア」と題して趣旨説明及び協力要請があった。

その後、実態のある協力歯科医療機関を募り方についてなど、具体的で活発な質疑応答を行った。

今後も広島市民病院入院支援室とは双方向

性の情報交換を行い、より実態に即し、且つ、質の担保がされる病診連携の充実を図っていく所存である。

なお、小松大造氏、能美和基氏、有馬隆市歯会理事、釜山憲二安佐歯科医師会担当理事、新谷宏規安芸歯会担当理事、中林浩樹佐伯歯会担当理事、中野誠広島市民病院歯科・口腔外科部長、澤木康一広島市民病院歯科・口腔外科部長、岡崎文彦広島市民病院歯科・口腔外科歯科医師が参加した。



事前説明会の様子

支部だより

中区支部

口腔機能低下防止予防教室

日時：9月9日(水)午後1時30分

場所：「千田スポーツ会館」

広島市国泰寺地域包括支援センター主催の口腔機能低下予防教室が開催され、平田誠本会中区支部会員が「健康長寿の秘訣は口にある！」と題して講演を行った。この千田スポーツ会館では、全身の健康を維持するための講演を定期的に行っており、地域の高齢者の方々が受講できる仕組みとなっている。そのため受講者は健康に対して非常に意識が高く、それに対する知識も豊富であった。

講演では、口の健康が全身の健康と大きく関わっていること、また、現在の高齢化社会における目標は、いかに長生きするかでは

なく、「いかに自立して健康に暮らせるか」すなわち、健康寿命を延ばすことであることを説明した。そのためには咬み合わせや口腔ケアが必要不可欠なことを認知症や転倒との関連などの資料を供覧してさまざまな観点から訴えた。

当日は台風の影響によるあいにくの雨のため参加者は少なかったが、アットホームな雰囲気、講演中も参加者から活発な質問が多くあり、人数の少なさを感じさせない熱気にあふれたものとなった。また、日本赤十字広島看護大学看護学部の学生が見学実習として

参加しており、ブラッシング指導等を積極的に受ける場面も見受けられた。



講演をする平田誠氏

今後も、本支部では地域において、口腔の重要性を啓発していく所存である。



口腔機能低下予防教室の様子

第3回 江波圏域多職種連携会議

日時：9月12日(土)午後4時

場所：大手町平和ビル5階「大会議室」

江波圏域において第3回目の多職種連携会議が、中区医師会の主催で開催された。この会議は、在宅医療において多職種の連携を深めることを目的に、江波圏域の医師・歯科医師・薬剤師・看護師・ケアマネジャー・地域包括支援センター職員など64名が参加した。

森田健司中区地域保健対策協会会長の挨拶の後、架空事例として「認知症が進行し、近所とのトラブルが発生している事例」を地域でどのように支える事ができるか、8つのグループに分かれそれぞれの職種の立場からこの事例の問題点や解決策など意見を出し合い、グループごとに発表した。また、今回の会議ではグループワークに加え、岩崎庸子広島市西部認知症疾患医療センター長から「認知症周辺症状のある高齢者を地域で支えていくために～BPSD症状のある方への対応及び専門医療機関との連携ポイント～」、岡田眞理広島市認知症地域支援推進員から「認知症高齢者を地域で支えるために～認知症支援推進員の立

場から感じていること～」を演題とした講演も併せて行われた。最後に宮城昌治中区健康長寿課課長による閉会の挨拶で会議を終了した。その後会場を替えて名刺交換・懇親会が行われ、会議室での意見交換をも上回る盛り上がりとなり、多職種間で重要な顔の見える関係作りとなった。この会議には本会中区支部から石嶋誠司氏、鎌田一道氏、小松大造氏、橋本隆氏、波田佳範氏、前田羊一氏、香川次郎氏、辰本将哉氏が参加した。



会議に参加した中区支部会員

ソフトボール佐伯歯会練習試合

日時：10月3日(土)午後7時

場所：廿日市市「昭北グラウンド」

10月3日(土)午後7時より、廿日市市の『昭北グラウンド』において、佐伯歯会と今シーズン最後の合同練習、練習試合を行った。

当日は、両地区とも会議講習会等が重なり、必ずしもベストメンバーがそろったわけではなかった。ちなみに広島市歯会は中区と南区

の合同であった。

練習試合冒頭、佐伯歯会よりミート打法による打撃練習とその打球をつかむという守備練習が提案された。以外に止まった球を打つことは難しく、それをセンター返しの要領で打ち返す技術は難儀なものであった。しかし、

効果的な打撃と守備の練習が同時にできるということは非常に意義深いものであった。来年度のシーズンにはわがチームにも取り入れたいと思った次第である。

さて、練習試合の方はというと、佐伯 A クラスとは序盤先制し、リードを保った場面もあったが、地力に勝る相手チームに追いつかれ突き放されるという展開であった。しかし、一方的な守備練習に終わった今までと比べると攻撃面において少しずつではあるが、進歩しているように思えた。一方、佐伯 B チーム

においては、一進一退の攻防劇を繰り返し、最後に突き放したという展開であった。

今年も 2 回にわたって、佐伯歯会と合同練習・練習試合を行ってきたわけであるが、その都度その都度に得るものが大きく、技術並びに精神面で大きく鍛えていただいたように思える。この誌面を借りて、佐伯歯会にはお礼申しあげる次第である。そして、学びえたものを 10 月 18 日(日)の本番に活かしていこうと思った。



佐伯歯会チームと
中区・南区支部チーム

中区健康よろず相談

日時：10月4日(日)午前10時00分～午後2時00分

場所：中区大手町「大手町平和ビル4階」

標記会が開催された。この催しは毎年中区地対協の主催によるものであり、歯科部門においては、お口の健康相談をはじめ、口腔細菌カウンター、口臭測定、ガムによるかむ力テストが行われた。

今年は、同ビルの5階で広島市歯会の小松大造地域保健部理事の講演会があったこともあり、講演終了後たくさんの方が歯科部門のブースを訪れてきたようであった。ただ残念だったことは、口臭測定器が途中から調子がわるくなったことと、ガムテストのガムが義歯にくっつくなど義歯使用の人にあまり好評でなかったことが挙げられた。今後はこれらのことをふまえ、来年度に生かしていきたいと思う次第である。

なお、中区支部より波田佳範支部長と、三次みさと副支部長が出務した。

東区支部

主治医とケアマネジャーの介護保険を考える会

日時：9月11日(金)午後7時

場所：「広島ガーデンパレス」

主治医とケアマネジャーの介護保険を考える会が標記の日時場所で行われた。参加者は東区医師会の医師30人、広島市歯会東区支部及び安芸歯会東区ブロックの歯科医師13人(市歯会東区支部は11人)、広島市薬剤師会の薬剤師7人、地域連携室19人、ケアマネジャー等30人、訪問看護師15人、東区役所職員10人の124人が参加した。医師とケアマ

ネージャー等の多職種の「顔の見える関係連携」をめざすこの会は、広島市東区地域保健対策協議会が主催し、広島市東区医師会が共催となって行われているが、広島市歯会は4回目の参加となった。山下喜史東区地対協常任理事の司会により始まり、佐藤修治東区地対協会長(東区医師会会長)の挨拶、宮迫英樹東区地対協常務理事(広島市東保健センタ

一長・医務監)の挨拶に引き続いて住吉秀隆東区地対協常任理事が座長となり、まず金谷雄生東区地対協副会長より「東区医師会在宅支援入院対応ネットワーク(東区在宅アドネット)について」という題目でフェイスネットの運用状況・問題点についての講演があった。続いて岡田浩佑神田山やすらぎ園付属診療所医師より「高齢者の転倒骨折予防のための利尿薬節減と筋肉・水分量の解析」という題目で講演があった。その後、質疑応答に移り、最後に東区内の後方支援病院・有床診療所の紹介があり、医療と介護の連携がますます

す必要となってきたことが説明された。その後、親睦会に移り、松出由美東区地対協副会長(東区長)の挨拶の後、亀山雅博東区ケアマネ自主勉強会会長の乾杯の音頭で親睦会が始まった。交流会も4年目ともなると、医科・薬剤師・介護職ケアマネの方々とも顔のみえる関係が築かれ地域の先生を中心に集まり、在宅医療についてお互いに意見交換をして、理解を深めた。盛況のうちに時間となり、堀内賢二東区地対協副会長(東区医師会副会長)により閉会の挨拶があり、午後9時30分に閉会した。



参加した東区会員

南区支部

第一回広島市南区在宅医療・介護連携推進研修会・連絡会

日時：9月17日(木)午後7時00分～午後8時40分

場所：南区役所別館4階「大会議室」

広島市南区における在宅医療・介護連携を推進することを目的として、標記研修会・連絡会が広島市南区地域保健対策協議会の主催で開催された。関連職種から約130名の参加があり、市歯会からも土江健也前会長を始めとして多数の会員が参加した。

研修会は南区医師会の野島秀樹氏の司会のもと、森美喜夫広島市南区地域保健対策協議会会長による挨拶で開会した。最初に浜井行夫石田耳鼻咽喉科院長が「嚥下機能の低下が疑われる方への在宅支援について」と題した講演で、嚥下機能の低下が疑われる高齢者を早期発見するポイントや嚥下障害患者への対応等について解説した。続いて、訪問看護ステーション・ハローナース・シーサイドの奥田恵美言語聴覚士が「安全に食べるために」と題して、姿勢の調節を始めとした食事を安全にとるための工夫、嚥下機能の回復のためのリハビリ等について詳しく説明した。その

後、ウォンツ吉島薬局の衛藤彩管理栄養士が「安全な食事のための形態・食材・調理の工夫」と題して、訪問栄養指導の業務内容、飲み込みやすい食事形態、食材の選択および調理の工夫等について講演した。

講演終了後には事前アンケートを題材とした質疑応答が行われた。嚥下障害がある患者の紹介先として歯科と耳鼻咽喉科、どちらが適当かを判断する際の基準を問う質問に対しては、中川誠地域歯科保健部委員が積極的な発言を行った。また、同委員は広島市歯科医療福祉対策協議会の在宅訪問歯科健診・診療事業を紹介し利用を呼びかけた。

最後に松田尚美広島市南区健康長寿課課長の挨拶にて閉会となった。

当日配布された事前アンケート集計結果は、摂食嚥下障害にまつわる困難に苦悩する関連職種の実情が如実に表れた内容であった。今後、我々歯科医師は摂食嚥下障害の専門家と

して社会への貢献が求められる機会が益々増えるものと予想され、一層の研鑽の必要性が

再確認された。



講演する中川誠地域歯科保健部委員

第16回南区ボランティアフェスティバル

日時：10月4日(日)午前10時00分～午後3時30分

場所：南区地域福祉センター(南区役所別館)2・3・4階、駐車場

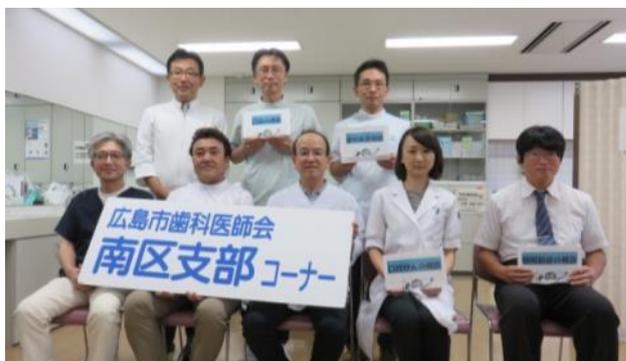
「広げよう地域の力」をテーマにボランティア活動を始めてみたい方のきっかけづくりとなるようボランティアグループ・個人が協力し自分たちの活動を紹介・アピールをするとともに、参加した人たちがいろいろな体験や交流を通じてボランティア活動について理解を深める目的で開催された。

広島市歯会南区支部は口腔ガン・顎関節症の検診、歯科疾患相談、口臭チェックを担当し、県立広島病院より桐山健氏、川住薫子氏、

南区支部より中本雅志氏、田中通章氏、玉川幸二氏、岡野聡氏、植田直人氏、大出和宏氏が参加した。

来場者数

・口腔ガン・顎関節症の検診	31人
・歯科疾患相談	41人
・口臭チェック	61人



参加した南区支部会員

西区支部

西区老人クラブ連合会 健康教室

日時：8月26日(水)午後1時30分～午後3時30分

場所：「西区地域福祉センター」

西区老人クラブ連合会主催の健康教室として「お口のメンテナンスはシニアのたしなみ～元気高齢者のススメ～」と題して濱岡代枝地域歯科保健部委員が講演を行った。

講演では、口腔の嚙むという機能を保つことが、健康の維持のためにいかに大切かを説明したのち、舌や口輪筋の運動を実習を交えながら紹介し、セルフケアと共に、歯科医院でのプロフェッショナルケアがお口のメンテナンスには重要であると説明した。

最後に、広島市通所口腔ケア事業と、在宅訪問歯科健診・診療事業を紹介して講演を終えた。

老人クラブの年に一度の総会で、70人以上の参加があり、講演中の実習も、皆さんが熱心に取り組む姿がみられ、さらに講演の後には、「舌運動などを一日何回すればいいのか」などの質問があり、お口の健康に対する意識が高まったことが伺われた。

市歯会地域歯科保健部は、今後も地域からの講演依頼には積極的に対応し、口腔の重要性を啓発していく予定である。

各部からの報告

広報部

今月の知っておきたいこと

▼改定速報 診療報酬改定の基本的視点と具体的方向性を例示 医療保険部会

第88回社会保障審議会医療保険部会 <http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000097056.html>

厚生労働省は9月11日、社会保障審議会の「医療保険部会」を開催。現在、(1)次回の診療報酬改定の基本方針の検討、(2)2016年度予算概算要求・税制改正要望(健康・医療分野)、(3)2014年度の医療費・調剤医療費の動向、(4)子どもの医療制度の在り方等に関する検討会について一などを議論している。

(1)では、厚労省は、次期2016年度改定にあたっての基本認識について、「超高齢社会における医療政策の基本方向」、「地域包括ケアシステムと効率的で質の高い医療提供体制の構築」、「経済・財政との調和」などを検討するとしている。

また、「改定の基本的視点と具体的方向性」について、(i)医療機能の分化・強化、連携と地域包括ケアシステムを推進する視点、(ii)患者にとって安心・安全で納得のできる効率的で質の高い医療分野を充実する視点、(iii)重点的な対応が求められる医療分野を充実する視点、(iv)効率化・適正化を通じて制度の持続可能性を高める視点一が例として示された。

さらに、「方向」の例示として、(i)では、病床機能の分化・強化、連携に合わせた入院医療の評価や、地域包括ケア推進のための多職種連携の取り組み強化(退院支援、医療介護連携、栄養指導など)、医療保険制度改革法もふまえた外来医療の機能分化などが示された。

また、(ii)では、かかりつけ医、かかりつけ薬剤師・薬局の評価を、(iii)では、認知症施策推進総合戦略(オレンジプラン)を踏まえた認知症患者への適切な医療の評価、地域移行・地域生活支援の充実を含めた質の高い精神医療の評価を例示。(iv)では、後発医薬品の使用促進・価格適正化・長期収載品の評価の仕組み、残薬・多剤・重複投薬を減らすための取り組みの推進など医薬品の適正使用推進の種の方策、いわゆる門前薬局の評価見直しなどが示されている。

「参考」

時期診療報酬改定の基本方針の検討について

http://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-12601000-Seisakutoukatsukan-Sanjikanshitsu_Shakaihoshoutantou/0000097157.pdf

▼ [雇用対策] 介護・看護など人材不足分野へ雇用政策の提言 厚労省

雇用政策研究会報告書(中間とりまとめ)8月27日 <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/0000095624.html>

厚生労働省は8月27日、「雇用政策研究会報告書(中間とりまとめ)」を公表した。景気の回復基調で雇用情勢の改善が進むなか、「医療、福祉」など一部分野では構造的な人材不足が生じており、「人手不足産業」などの課題に対して提言を行っている。

中間とりまとめでは、「介護」分野で、2025年に約253万人の人材が必要と推計され、約37.7万人の人材が不足すると指摘。対応策として、将来を担う若年層から職業に選択されるため、魅力ある情報発信の強化を求めている。また、離職理由は「結婚・出産・育児」「労働環境・雇用管理のあり方」「収入が少ない」などが多く、労働環境改善などを通じて、仕事への定着支援を行うことが重要とした。このため、職場内の育児休業制度の整備・充実など、子育てをしながら働き続けることのできる環境整備などを求めている。

さらに、介護業界全体でのキャリアパス整備が必要とし、賃金については、2015年度に【介護職員処遇改善加算】が拡充され上乗せが行われるが、「事業主はこれを賃金に適切に反映していくことが求められる」と述

べている。

他方、「看護」分野でも、2025年には約200万人が必要とされており、約3万～13万人の人材が不足すると推計。現在、潜在看護職員（免許保有で就業していない看護職員）は約71万人と推計され、2015年10月1日創設の都道府県ナースセンターへの連絡先の届出制度などで必要な支援を行うことを求めた。また、一旦離職すると医療技術の進歩への不安などから再就職が進まないため、復職研修などの実施が必要と強調。さらに、夜勤・交代制勤務などの厳しい労働環境に対し、労働時間の改善や多様な働き方の環境整備などで離職防止・定着促進を図ることが必要としている。

こうした人材不足への対応として「外国人材の活用」があげられるものの、受け入れ範囲拡大による労働市場や医療・社会保障、治安など国民生活への影響もふまえて、幅広い観点から政府で検討することが必要と指摘している。

ニュースピックアップ

▼混合診療拡大運用案を了承…中医協

中央社会保険医療協議会（厚生労働相の諮問機関）は9月30日、公的な医療保険外の診療を保険診療と併用できる混合診療の拡大で来年4月から導入する「患者申出療養制度」について、患者が医薬品や医療機器の利用を国内で初めて希望する場合、安全性や有効性を国の有識者会議が審査するなどの運用案を了承した。

（2015年10月1日読売新聞）

yomiDr. <http://www.yomidr.yomiuri.co.jp/page.jsp?id=124447>

中央社会保険医療協議会総会（第304回）議事次第

<http://www.mhlw.go.jp/stf/shingi2/0000098338.html>

▼有効、安全なら保険適用を 混合診療拡大で患者団体

47NEWS <http://www.47news.jp/CN/201508/CN2015082101001801.html>

保険診療と保険外の自由診療を併用する混合診療の対象を拡大する「患者申出療養制度」に関し、がんや難病の患者団体は8月21日、東京都内で記者会見し、有効・安全と確認した治療法は速やかに保険を適用するよう求める意見書を発表した。

患者申出療養は来年4月に始まり、厚生労働省の詳細な制度設計が来月にもまとまる。意見書は全国がん患者団体連合会と日本難病・疾病団体協議会が発表。有効・安全な治療法が患者申出療養のまま保険適用されないと、自己負担が軽減されず、経済力のある患者しか受けられなくなる恐れがあると指摘した。

Point of View

◎医療費の抑制の為に混合診療を認めるのであれば、最新の治療で、有効性があり、安全な治療であったとしても自費診療になる可能性があります。そうなった場合は、高額な治療費の為、経済力のある患者しか治療を受けることが出来ません。医療格差を無くし、共助の精神で、国家として国民の健康を守っていく必要があります。

▼就業歯科衛生士数 11万6,299人、就業歯科技工士数は3万4,495人

医療経済出版 <http://www.ikeipress.jp/archives/8543>

厚生労働省は7月16日、「平成26年衛生行政報告例（就業医療関係者）の概況」を明らかにした。報告によれば、平成26年末現在の就業歯科衛生士は11万6,299人で前回調査の平成24年に比べ8,176人（7.6%）増加している。一方、就業歯科技工士は3万4,495人で前回に比べ118人（0.3%）減少している。年齢階級別では、歯科衛生士は「25～29歳」が1万9,587人（16.8%）で最も多く、歯科技工士は「50～54歳」が5,042人（14.6%）で最も多かった。予防、口腔ケアの需要に応えるように歯科衛生士が増加しているのに対し、歯科技工士数は減少傾向にあり、全般に高齢化していることも課題と考えられる。

Point of View

◎現状では、歯科衛生士については、人材不足が認められる傾向ですが、「掘り起こし」などの影響で、職場復帰されている衛生士さんも多いのではないのでしょうか。一方、歯科技工士においては、就職となると、大手のラボが主となり、ある程度経験を積んだ後に、自身でラボを経営するという形になることも多いことから、高齢化しやすいとも考えられます。これが今回の結果に結びついているかと思います。我々も、衛生士さんや技工士さんが、安心して働ける環境づくりのお手伝いをしていかなければならないですね。

▼地域包括ケアに向けた『かかりつけ連携手帳』を公表

日医白くま通信 <http://www.med.or.jp/shirokuma/no1918.html>

石川広己常任理事は、9月9日の定例記者会見で、『かかりつけ連携手帳』を作成したことを公表した。『かかりつけ連携手帳』は、かかりつけの医師・薬剤師・歯科医師及び地域包括に欠かせない看護・介護スタッフ等の医療従事者が、それぞれに持っている患者さん単位の情報をアナログ的に共有できるようにすることを目的としている。日医では、日本歯科医師会、日本薬剤師会と共に「健康・医療・介護分野におけるICT化」の連携基盤の構築・環境整備事業の推進に努めているが、ICTによる情報連携の仕組みが普及するまでの間、アナログでも十分な連携が行えるよう、『連携手帳』を作成することにした。

同常任理事は、本年4月より実施されている在宅医療・介護連携推進事業において、具体的な8つの取り組み内容に「医療・介護関係者の情報共有の支援」が掲げられていることに言及。「健康・医療・介護分野における情報連携のICT化は、まだ基盤の準備段階であり、全ての地域でICTを用いることは難しい」と説明した上で、「ICTの普及にはまだ時間がかかると考えられているが、この『かかりつけ連携手帳』を活用することで、ICTを利用しなくても医療・介護関係者との連携を推進できる」とし、『連携手帳』作成の意義を強調した。

また、同常任理事は、『連携手帳』には、オプションページを設けており、地域の特性に合った情報を追加することで活用の幅が広がり、地域に根付かせることもできるとした上で、「日医のホームページで公開している『かかりつけ連携手帳』を活用し、地域の実情に合った健康・医療・介護分野における情報連携を進めて欲しい」と述べた。

Point of View

◎これからも医科と歯科の連携が在宅医療・介護医療ではどうしても必要です。また、この関係を是非にも維持していかなければなりません。歯科にしかできないことを医科に認識し続けてもらえるよう、歯科サイドも積極的な活動を行う必要があります。

▼のみ込む力 電気で治療 世界初 嚥下障害で機器開発

兵庫医大

神戸新聞 <http://www.kobe-np.co.jp/news/iryuu/201509/0008355265.shtml>

兵庫医科大（西宮市）などの研究グループは9月31日、食物をのみ込む力が低下した「嚥下（えんげ）障害」に対し、喉の神経を微弱な電気で刺激して治療する世界初の機器を開発した、と発表した。嚥下障害は食べる楽しみを奪い、死因の3位である肺炎を引き起こすが、根本的な治療法がなかった。機器は9月下旬に発売予定。

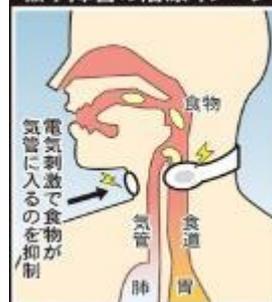
食物が喉に達すると喉の神経から脳へ情報が伝わり、脳が命令を出して食物を食道、胃へと送るのが「嚥下」。嚥下に障害があると、誤って空気が通る「気管」に食物が入り、肺炎の危険が高まる。

嚥下障害は脳卒中などのため喉の神経活動が低下し、脳の命令が遅くなることが主な原因。年間約40万人の脳卒中患者のうち、7割以上に起こるといふ。

開発した機器は、食事の際、首にパッドを付けて微弱な電気を流し、喉の神経活動を活発にする。従来あった嚥下の筋肉を強化する電気治療器を参考にし、電気を弱めて流し方を工夫。従来機器の問題だった痛みをなくした。

開発した機器を12人の患者に試した結果、嚥下の速度が約15%改善し、正常化。機器は医療機器製造販売「ジェイクラフト」（大阪府和泉市）が手掛け、7月に製造販売の認証を受けた。兵庫医科大生理学講座の越久仁敬主任教授（56）は「兵庫発で全国にこの新治療法を広げたい」と話す。

嚥下障害の治療イメージ



開発された嚥下障害の治療器（患者役は兵庫医科大職員）
＝31日午後、西宮市武庫川町

Point of View

◎食事の際に、嚥下障害のある人の首にパッドをつけて、喉に電気刺激をあてて、神経活動を活発にすることによって嚥下速度を向上する治療器です。これにより、嚥下力を強化し、誤嚥を防止する効果が得られるそうです。新しい治療法ですが、今後の治療成果に注目していく必要があります。

▼CT スキャンで細胞は損傷する

ヘルスデージャパン

http://www.healthdayjapan.com/index.php?option=com_content&view=article&id=6079:ct201583&catid=20&Itemid=98

CT スキャンを受けると細胞傷害が生じることが、新たな研究で判明した。ただし、それががんなどの健康問題の原因となるのかどうかは明らかにされていないという。米スタンフォード大学心血管研究所の Joseph Wu 氏によると、心疾患への医用画像の利用はこの10年で急増しているという。このような検査による低線量被曝の影響はわかっていないが、現在の技術ではごくわずかな細胞レベルの変化を調べることができる。今回の研究では、67人の被験者を対象に、心臓CTスキャンの前後に採取した血液を調べた結果、スキャン後は細胞内のDNA損傷や細胞死が増加することがわかった。また、細胞の修復や死滅に関与する遺伝子の発現も増大した。CTスキャンにより損傷した細胞の大部分は修復されるが、ごく一部は死滅すると、研究グループは説明している。研究の筆頭著者の1人である米スタンフォード大学医学部助教授の Patricia Nguyen 氏は、「CTによる少量の放射線被曝でも、細胞損傷を引き起こすことがわかった」と述べる一方、それが患者にがんなどの悪影響を及ぼすかは不明だとした。同氏らはこの知見に基づき、医師らはCTスキャンの線量低減のための対策をとる必要があると述べている。今回の研究では、CTスキャンによる被曝線量が最も低かった健康な平均体重の人にはDNA損傷は認められなかった。



しかし、それでもCTスキャンによる被曝は胸部X線の150倍以上にもなると研究チームは指摘する。また、米国立がん研究所(NCI)は2007年、米国内で同年に実施された7,200万件のCTスキャンが将来的に2万9,000例のがんに関連する可能性があるとして予測している。米オレゴン州ポートランドのがん専門医 Lucy Langer 氏は、「DNA損傷の修復や排除ができない細胞は、変異細胞と呼ばれ、がん性腫瘍になる可能性がある」と説明する。しかし、今回の研究は放射線によるDNA損傷と将来のがん発症との関連を明らかにするものではなく、可能な限り被曝を最小限にとどめるよう注意する必要があるとの考えを裏付けるものだと同氏は述べている。Nguyen氏もこれに同意し、「CTスキャンを排除すべきではないが、線量を低減し、機器や技術を改良し、患者を防護する対策をとることにより、さらに安全なものにできる」と述べている。

Point of View

◎歯科の分野においても、CTの使用で、より正確な診断・検査ができることから、CTを導入している歯科医院が増加し続けていますが、「CTでの被曝で細胞損傷が起きる」この結果については真摯に受け止めていかなければならないと思います。この研究では、あくまで医科における研究であり、歯科用CTが、どれくらいの影響を受けるかについては、記載されていませんが、患者さんが、不必要な被曝を受けないよう、最大限配慮する必要は常に念頭に入れておかなければならないですね。

▼名句集まる、「歯」に関する俳句・川柳—入賞作品を発表

メディカルトリビューン <http://kenko100.jp/articles/150826003575/>

松風

食べ物をかみ砕いたり、いきいきとした笑顔をつくるなど、歯の役割は大切。歯科材料・機器メーカー「松風」(京都市)は、同社の歯の知育サイト「はいく」で、歯の大切さを考えてもらうことを目的に「歯」に関する俳句・川柳を募集している。4回目の今回は過去最多の4,874作品が集まり、厳正な審査が行われた結果、一般部門の最優秀賞には「仕上げはね パパのトコでも いいんだよ」が選ばれた。

歯科治療・予防を身近に

「はいく」は歯科医師が監修した歯をテーマにした絵本が無料で読めるなど、歯に対する知識を深めることを目的としたサイト。歯に関する俳句・川柳の募集もその一環だが、今年6月4日～7月31日に応募された作品の審査結果が「はいく」の語呂に合わせた8月19日に発表された。



◆最優秀賞

一般部門

「仕上げはね パパのトコでも いいんだよ」(東京都 はなぺちゃさん)

歯科医療従事者部門

「削れない 踏んだペダルは 助手の足」(東京都 わたなべ歯科医院 となりのキトリ)

◆優秀賞

一般部門

「初恋の かわいい八重歯 妻となり」(新潟県 ウェスティー)

「歯ブラシの 乾いてさびし 孫の顔」(千葉県 富田柊二)

「永久歯 名前を信じて バカだった」(秋田県 まさくま)

歯科医療従事者部門

「歯磨きし いいことありそな 虹の朝」(徳島県 四国歯科衛生士学院専門学校 酒井みね)

「じっとして 動かないのに 汗たらり」(徳島県 土内歯科医院 星月夜)

「健しょう炎 痛さもふきとぶ “ありがとう”」(神奈川県 歯科川崎医院 エイジハラスメントしないでネ)

学校での取組みとしての応募作品もあり、良い作品があった学校には特別賞として絵本が贈呈されるという。同サイトには過去の受賞作も掲載されている。

(あなたの健康百科編集部)

Point of View

◎「はいく」のサイトを覗いてみてください。歯の俳句はおもわず吹き出してしまう傑作もあり、また無料で読んだり、ダウンロードしたりして印刷製本可能なデータのある絵本もあります。URL を以下に掲載します。
<http://8iku.com/>

▼厚労省、概算要求 30.6 兆円 高齢化で医療・年金膨らむ

日本経済新聞 http://www.nikkei.com/article/DGXLASF26H09_W5A820C1000000/

厚生労働省は8月26日、2016年度予算の概算要求を自民党厚生労働部会に示した。要求額は高齢化などによる社会保障の自然増6,700億円を含めて30兆6,675億円で、今年度当初予算より2.5%増えた。前年の要求額と比べると医療費が3,171億円、2.8%増えて11兆4,523億円となった。成長戦略に向けた特別枠には2,252億円を盛り込んだ。

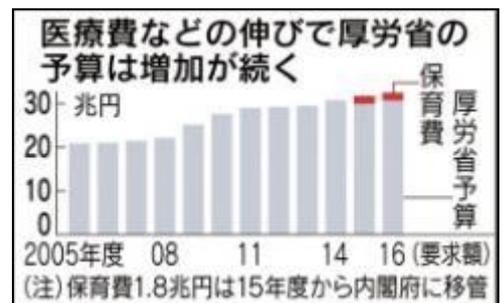
15年度から内閣府に移った保育所の運営費(約1.8兆円)を合わせると、厚労省の予算としては過去最大になる。財務省が各省の概算要求を査定して、年末に予算案をまとめる。

厚労省の概算要求のうち、医療費は高齢者の増加で膨らむ。16年度は医療サービスの公定価格(診療報酬)を見直す年にあたるが概算要求段階では診療報酬は横ばいと仮定した。年金は11兆2,397億円で2.6%増。受け取る人が増えるうえ、1人あたりの年金額が、物価・賃金の変動と少子高齢化に合わせた改定で0.1%増えると見込んだ。

介護は2兆7,376億円で前年よりわずかに減る。介護を必要とする人は増え続けているが、前年の概算要求のあとに介護サービスの公定価格(介護報酬)を引き下げたためだ。

日本年金機構がサイバー攻撃で個人情報流出した問題を受けて、情報管理の強化に62億円を盛り込んだ。専門人材の増員や、システムの改修などにあてる。機構だけでなく、ハローワークや全国健康保険協会(協会けんぽ)などの情報管理も徹底する。

推進枠では、子どもの貧困やひとり親家庭の対策に223億円。親の資格取得を通じた技能の向上や、子どもの学習支援にあてる。総合的ながん対策に250億円、国民の健康づくりを後押しする病気予防にも50億円を盛り込んだ。



Point of View

◎高齢化が進んでいくために、厚生労働省の予算も増加の一途をたどっております。医療費や年金は自然増が続いております。成長戦略に向けた予算を有効に使ってこの状況を打破してもらいたいものです。また、今後マイナンバー制度等の情報化が進むため、個人情報の保護等の予算も増えていくことも予想されます。これらの厚生労働省の要求額がどこまで認められるのか、注目する必要があります。

▼「健康寿命」日本が首位 英誌に188カ国調査

47NEWS <http://www.47news.jp/CN/201508/CN2015082801000999.html>

世界188カ国の2013年の「健康寿命」を調べたところ、日本が1位だったとする調査結果を米ワシントン大(西部ワシントン州)などの研究チームが8月27日付の英医学誌ランセットで発表した。健康寿命は介護が必要だったり、日常生活に支障が出る病気にかかったりする期間を除き、自立して過ごせる期間を示す。

同チームによると、日本の健康寿命は男性が71.11歳、女性が75.56歳で、男女とも健康寿命は1位だった。この年の日本人の平均寿命は男性が初めて80歳を超え、女性は86歳台だった。

健康寿命の男女平均で2位は72.1歳のシンガポール。

Point of View

◎日本人の健康寿命が世界で第一位となったそうです。喜ばしい出来事です。寿命が延びたとしても健康でなければQOLが向上したとは言い難いでしょう。歯科を含め、医療の発展が人々の健康に貢献できていると判断してよいのではないのでしょうか。今後も医科歯科連携して健康寿命を延ばしていければ、と思っております。

▼ベルギーでは精神疾患による安楽死の希望が少なくない

ヘルスデージャパン

http://www.healthdayjapan.com/index.php?option=com_content&view=article&id=6108:2015810&catid=20&Itemid=98

ベルギーでは2002年、薬剤の経口または静脈内投与による安楽死が合法化された。その後の新たな研究で、同国の精神疾患患者が安楽死を望む理由として多いのは、うつ病および人格障害であることが判明した。今回の研究では、ベルギーのオランダ語圏で2007～2011年に発生した精神疾患患者による安楽死の要求をレビューし、患者を2012年まで追跡した。女性70人、男性23人が精神疾患の苦痛に耐えられず安楽死を希望していた。患者の年齢は21～80歳、平均47歳だった。91人がカウンセリングに紹介されており、73人が医学的に就労不可と判断され、59人が一人暮らしをしていた。90人が複数の精神障害を抱えており、特にうつ病(58人)および人格障害(50人)が多かった。58人で安楽死の要求が認められ、35人に実行された。8人は、生き続けるのに十分な心の平穏が得られる選択肢があったとの理由で、安楽死を取り消しまたは延期した。2012年末までに43人が死亡し、そのうち6人は自殺だった。安楽死を認められた患者のうち30人は家族または友人に囲まれ、落ち着いた安らかな状況で死に至っており、これは「援助のない衝撃的な自殺の場合には達成し得なかった状況である」と、研究著者であるベルギー、ブリュッセル大学病院のLieve Thienpont氏は述べている。

ベルギーでは2010年と2011年に2,000人以上が安楽死により死亡している。このうち10%弱は末期患者ではない人だった。この2年間のベルギーでの全死亡例の1%を安楽死が占めていることが、今回の研究で明らかにされた。研究グループは、「耐え難い苦痛」の定義について一致する見解はなく、ベルギーには精神疾患患者の安楽死の要求を扱う最善の方法についてのガイドラインはないと指摘している。「倫理面での激しい議論が続いていることを考慮すれば、そのようなガイドラインを作成し、それを元に実際の診療に適用できる明確かつ綿密なプロトコルを作ることが不可欠である」と、研究グループは結論づけている。

Point of view

◎とても難しく、答えが出にくい問題かと思えます。ターミナルケアにおける安楽死についても、一定の答えが出にくい現状で、精神疾患での安楽死については、更なる議論が必要ではないかと思えます。一番理想的なのは、疾患からの回復でしょうが、「耐え難い苦痛」からの解放という意味での、安楽死の選択というのは、どこまでが許容される範囲なのか。プロトコル作成の段階においても、議論の積み重ねが大事になってくると思えます。

▼初のiPS移植から1年、加齢黄斑変性の患者「視力安定」

yomiDr <http://www.yomidr.yomiuri.co.jp/page.jsp?id=123557>

目の難病「加齢黄斑変性」の患者に、iPS細胞(人工多能性幹細胞)を利用した世界初の移植手術を昨年9月に実施した高橋政代・理化学研究所プロジェクトリーダーは9月7日、手術から間もなく1年になる患者の経過について、「腫瘍もできておらず、うまくいっている」と述べた。

大阪市で開かれたノーベル賞受賞者を囲むフォーラム「次世代へのメッセージ」(読売新聞社主催)の講演で語った。

患者は70歳代の女性で、昨年9月12日に本人のiPS細胞から作った網膜色素上皮の細胞シートを右目に移植した。

高橋リーダーは、女性の視力が手術後もほとんど下がらず安定していると強調。「視力回復の見込みが少ない方だったので、下がっていないのは治療の効果と言える。患者も喜んでいる」と話した。

(2015年9月8日 読売新聞)

Point of View

◎暗い話題が多い中で、明るい話題にあうとホッとします。人体への応用に躊躇が見られるiPS細胞ですが、このように発表した山中教授が在住する日本だからこそ、思い切った臨床試験ができるのかもしれない。今後の成果を期待しましょう。

▼100歳以上、初の6万人超…45年連続最多更新

yomiDr. <http://www.yomidr.yomiuri.co.jp/page.jsp?id=123714>

敬老の日を前に厚生労働省は11日、100歳以上となる高齢者が今月15日時点で、6万1,568人(前年比2,748人増)に上ると発表した。

6万人を超えるのは初めてで、女性が87%を占める。今年度中にちょうど100歳を迎える高齢者は3万379人(前年度比1,022人増)で、初めて3万人を突破する。

100歳以上の人は、老人福祉法が制定され、国による表彰が始まった1963年は153人だったが、98年に1万人を突破。今年45年連続で過去最多を更新した。

厚生省高齢者支援課は「医療が進歩し、高齢者の健康への意識も高まったことが要因として考えられる」と分析している。

人口10万人に占める100歳以上の人数は全国平均で48.45人。都道府県別では、島根県(90.67人)が3年連続で最多となり、最も少ないのは26年連続で埼玉県(28.68人)だった。

(2015年9月11日 読売新聞)

Point of View

100歳以上の方が6万人以上もおられるのですね。人口ピラミッドがどんどん逆三角形に近づいているようで心配です。少子高齢化に歯止めをかけるためにも、将来に希望の持てる日本を早く取り戻してもらいたいです。

関連記事

日本人の「健康寿命」、男女とも世界でトップ

yomiDr <http://www.yomidr.yomiuri.co.jp/page.jsp?id=123194>

出生率1.42、9年ぶりにマイナス

yomiDr <http://www.yomidr.yomiuri.co.jp/page.jsp?id=123453>

▼成功している人は過剰飲酒リスクが高い？

ヘルスデージャパン

http://www.healthdayjapan.com/index.php?option=com_content&view=article&id=6073:2015730&catid=20&Itemid=98

高収入で健康な50歳以上の人——いわゆる「成功者」が、1つ注意しなくてはならないことがあるという。過剰な飲酒のリスクが高いということだ。英国の慈善機関Age UKのJose Iparraguirre氏率いる研究チームによると、「中流階級の現象」として、「健康状態が良好で、十分な収入があり、学歴も高く社会的に活発な人は、有害なレベルの飲酒をする確率が高い」という。今回の研究では、イングランドに居住する50歳以上の9,000人以上を対象に2008～2009年と2010～2011年に実施した調査の回答を追跡した。男性では週22～50単位、女性では週15～35単位の飲酒があれば問題飲酒のリスクが「増えつつある」とし、男性で週50単位、女性で35単位を超えていればリスクが「高い」とした。ビール1パイント(568ml)またはワイン小グラス1杯でアルコール2単位に相当するものとした。研究の結果、問題飲酒のリスクは、男性では60代前半がピークでその後は減少し、女性では年齢とともに減少していた。女性では収入の高さと問題飲酒のリスクに相関が認められた。喫煙、学歴の高さ、健康状態の良好さは、いずれも男女ともにリスクに関連していた。雇用形態は有意な因子とはならなかったが、女性では仕事を引退しているとリスクが高かった。抑うつや孤独感にリスクとの関連はみられなかったが、男性では別居や離婚を含めて一人暮らしをしている人は問題飲酒が多かった。男性では白人に問題飲酒がみられる比率が高かった。

Point of View

◎いわゆる「成功者」の方は、財力も然ることながら、人脈も広い方が多い傾向にあることから、社交場に出席することも多く、いわゆる「飲酒する機会」が多いことも影響しているのではないのでしょうか。どちらにしても、体調面に影響を与える可能性のある、危険域に達する飲酒については、自身での管理が必要になりますね。

FM ラジオ「FM ちゅーピー76.6MHz」

FM ラジオ「FM ちゅーピー76.6MHz」サイマルラジオスタート
お口の健康ひろば デンタルパーク 毎週月曜日午前11時から



広島市歯会提供のお口の健康ひろば「デンタルパーク」がインターネットラジオで聴けます。FMちゅーピーのホームページ <http://chupea.fm/> の上記FMちゅーピーのロゴをクリックすると、ネット放送を聴くことができます。

9月17日収録、10月5日放送分

広島市歯科医師会 瓜生賢

「デンタルパーク Q&A」

「歯ならび」についてや、「歯の詰めもの」に関する疑問などリスナーの質問に回答します。広島市歯科医師会の橋岡優先生がお話します。歯に関する悩みや質問はメール dental@chupea.fm、ファクス 082(297)7660 へ。

9月17日収録、10月12日放送分

広島市歯科医師会 大石正臣

「唾液の効能」

唾液は私たちにとって不可欠なものです。1日に1ℓ以上分泌される唾液には、細菌の発育抑制や食べ物の消化を助け、口臭を消し、むし歯や歯周病を防ぐ様々な効果があります。また唾液は条件反射によっても分泌され、例えば梅干しを見たり、想像したりすることでも出ます。今回は、唾液の特徴・効能について考えていきます

9月17日収録、10月19日放送分

広島市歯科医師会 植木貴宏

「すてきな女性の輝く笑顔は健康的な口元から」

すてきな笑顔は、どんな方からも好印象を持たれます。口元に自信がないと、笑顔もぎこちなくなりがちです。むし歯や歯ならび、口臭などのお口の悩みと健康についてお話いたします。

9月17日収録、10月26日放送分

広島市歯科医師会 大井手和久

「口臭の原因と対策について」

人と人とのつながりが避けて通れない現代社会では、口臭予防は身だしなみの一つです。口臭のせいで、せっかくのおしゃれも台無しとなり、大切な人間関係に悪影響を及ぼすかもしれません。さわやかな息づかいで好感度アップを目指しましょう。今回は口臭のさまざまな原因や対策方法についてお話します。

9月定例理事会報告

「部外報告」

- 8月27日 個別指導に係る立会
- 8月28日 滅菌事業落札
- 8月29日 広島市歯科医療福祉対策協議会
役員会総会
- 9月 1日 (県)第4回会館建設実行委員会
- 9月 2日 平成27年度総合防災訓練(不参加)
- 9月 5日 桐医会15周年記念祝賀会
- 9月 8日 IGL 医療福祉専門学校挨拶来館
(会長診療室)
- 9月10日 日本歯科医師会臨時代議員会
- 9月17日 広島市医療安全推進協議会
- 9月18日 広島圏域地域医療構想調整会議
" (県)第5回会館建設実行委員会
" 防災行政無線移動系
(MCA無線機)説明会
- 9月26日 スポーツ歯科を通じた県民の健康

づくり支援体制検討会議「第1回研修会」

- 9月27日 広島市医師会ゴルフ大会
" (県)税務指導者協議会
- 9月25-29日 社保診療報酬審査
(連盟関係)
- 9月 7日 平口ひろしを励ます会
- 9月 9日 「ゆざき知事を囲む県政懇談勉強会
2015年8月度」
- 9月29日 永田雅紀市議会議長就任祝賀会

「総務関係」

- 9月 9日 臨時三役会
- 9月28日 レイアウト検討業者と打合わせ
" 三役会
- 9月30日 職員採用面接
" 定例理事会
- (慶弔関係)

8月30日 森本克廣先生旭日双光章受章祝賀会
(入会退会関係)

9月 7日 入会前面談
(野坂覚先生・吉岡俊彦先生・
尾山直樹先生・尾山奈々子先生)
9月16日 入会前支部面談(尾山奈々子先生)

(1) 総務部(本山理事)

8月28日 警察歯科全国大会予演会(仙台)
8月29日 警察歯科全国大会(仙台)
9月 1日 西松建設・あい設計との打合せ会
9月 3日 広島大学病院歯科領域と打ち合わせ
9月 4日 警察歯科小委員会・研修会事前
打ち合わせ会
9月 6日 審美セミナー(博多)
9月 7日 入会前面談4名
(野坂先生・吉岡先生・
尾山直樹先生・尾山奈々子先生)
9月 8日 委員会
9月10日 広島拘置所における
医療に関する協議会
9月11日 警察歯科研修会事前打ち合わせ会
9月12日 警察歯科研修会(警察学校)
9月13日 医療セミナー(神戸)
9月15日 ホームテレビとの協議
9月16日 広島大学 歯科放射線科
谷本教授と協議
9月17日 平成27年度第1回広島市
医療安全推進協議会
9月18日 防災行政無線移動系
(MCA無線機)説明会
9月24日 総務部委員会
(ぼるフェス打ち合わせ)
9月25日 警察歯科小委員会

(2) 学術部(蜂須賀理事)

9月 2日 総合防災訓練
(参加依頼なく不参加)
9月 8日 学術部委員会
9月10日 県歯会
スリープスプリント名簿提出

(3) 保険・医療対策部(瓜生理事)

8月27日 新規個別指導
8月29日 広島市歯科医療福祉対策協議会
役員会総会

9月 6日 (県)研修会(呉)
9月10日 新規個別指導
" (県)常任委員会
9月16日 定例委員会
9月17日 FMちゅーピー収録
" 国保連合会歯科再審査部会
9月19日-23日 国保連合会歯科審査部会
9月24日 社会保険指導者研修会
9月30日 休日診療レセプト点検
" (県)税務指導者協議会

(4) 地域歯科保健部

8月29日 広島市歯科医療福祉対策協議会・
役員会
" 広島市歯科医療福祉対策協議会
総会
9月 9日 (県)地域保健部、学校歯科
保健部、介護・福祉医療部、
口腔保健センター一部、
広報部 常任委員会
9月17日 定例委員会
9月28日 小委員会(辰本先生予演)
<学校保健>(有馬理事)
8月27日 青崎向洋地区医療介護情報交換
9月 3日 広島市私立保育園協会訪問
" 広島市私立幼稚園協会理事長訪問
9月 8日 広島市南区地域包括支援センター
運営協議会
9月10日 広島市立保育園園長会
9月11日 広島市立幼稚園園長会
9月18日 南区健康長寿課南区地域包括
支援センター職員対象
在宅訪問歯科健診・
診療事業説明会
9月25日 新任嘱託学校歯科医研修会
9月28日 南区ケアマネージャー対象
在宅訪問歯科健診・診療事業説明会
<地域連携>(小松理事)
8月27日 (社福)福祉広医会 理事会・
評議委員会(悠悠タウン江波)
" (県)平成27年度8020運動推進
特別事業
スポーツ歯科を通じた県民の
健康づくり支援体制検討会議
第1回全体会議
8月28日 広島市民病院歯科・口腔外科と

入院支援室についての協議

9月 1日 休日診療レセプト点検

9月 4日 平成27年度広島県認知症患者医療センター合同セミナー
(ホテルグランヴィア広島「悠久」)

9月 8日 中区地域包括支援センター定例会での在宅訪問歯科健診・診療事業説明会

9月11日 (中区地対協)第13回 災害時医療研修会

9月12日 (中区地対協)第3回江波圏域多職種連携会議

〃 (県)平成27年度広島県病院歯科連絡協議会総会

9月18日 (中区地対協)国泰寺圏域多職種連携会議

9月24日 (株)ビーンスターク・スノーとの協議

9月25日 (県)平成27年度新基金事業検討会議

9月26日 (県)平成27年度8020運動推進特別事業
「スポーツ歯科を通じた県民の健康づくり支援体制検討会議」第1回研修会

9月30日 休日診療レセプト点検

<地域保健> (能美理事)

8月25日 東区第1合議体介護認定審査会

8月28日 (県)8020 節目歯科検診普及促進事業第2回委員会

9月 1日 東区第1合議体介護認定審査会

9月 8日 東区第1合議体介護認定審査会

9月11日 東区主治医とケアマネージャーの介護を考える会

9月12日 (県)平成27年度広島県病院歯科連絡協議会総会

9月13日 平成27年広島地区休日歯科救急医療後期打ち合わせ会

9月14日 (県)平成27年度8020達成者表彰二次審査

9月15日 東区第1合議体介護認定審査会

9月17日 (県)平成27年度8020達成者表彰二次審査

9月21日 協議会対応

9月22日 協議会対応

9月24日 (海田地対協)歯科保健研修会講演

〃 平成27年度第1回東区地域包括支援センター運営協議会

9月25日 (東区地対協)第6回東区地対協常任理事会・理事会

9月26日 (県)平成27年度8020運動推進特別事業
「スポーツ歯科を通じた県民の健康づくり支援体制検討会議」第1回研修会

9月29日 東区第1合議体介護認定審査会福祉対策協議会実績状況

(5) 広報部 (橋岡理事)

9月 1日 委員会

9月14日 委員会 (情報発信部門)

9月15日 委員会 (情報発信部門)

9月16日 FMちゅーピー (堀部様)と協議

9月17日 ちゅぴ com (屋敷様)と協議
FMちゅーピー収録 (広島市)
(瓜生賢氏、大石正臣氏、植木貴宏氏、大井手和久氏)
FMちゅーピー (新聞掲載)

9月 7日 「顎関節症について」水内裕之 (市歯会)

9月14日 「知覚過敏ってなあに？」山田英太郎 (市歯会)

9月21日 「酸蝕症について」田中尊治 (市歯会)

9月28日 「歯周病は全身の病気に悪影響を及ぼします」福島 整 (市歯会)

(6) 広島市歯科医師会ホームページについて

ホームページアクセス数

一般サイト 訪問者 510 (累計 16,957)

ページビュー 1,840 (累計 88,247)

会員サイト 訪問者 225 (累計 13,606)

ページビュー 1,010 (累計 156,019)

広報部 … Talking Heads<最新情報>
掲載件数 92件 (8/21~9/20)

(7) 特別委員会

9月 1日 (県)第4回会館建設実行委員会

9月18日 (県)第5回会館建設実行委員会

(8) 救急蘇生委員会

特になし

(9) 会館移転準備

9月30日 各部進捗状況報告…資料5

(10) 創立 100 周年記念事業について
行事・事業の方向性について協議

(11) 各部事業計画について
地域歯科保健部
平成 28 年度広島県歯科衛生連絡協議会
検討課題・項目(案)について
市民公開講座開催時期の変更について

(12) 歯科医療安全相談
なし

「協議事項」

- (1) 入会について (1 名)
東区支部野坂覚先生の入会について承認
- (2) ぼるフェスについて
ぼるフェスへ参加事業・内容について協議
- (3) 広島市学校保健会歯科保健対策委員会
での議題について
「健康診断結果のおしらせ」の改訂の
認識、保健調査項目の見直しについて
の確認
- (4) 広島市学校保健会歯科保健対策委員会
での「歯垢染色剤の資料配布」について
歯垢染色剤の使用法の指導について
協議
- (5) 第 65 回全国学校歯科医協議会
参加について
第 65 回全国学校歯科医協議会
参加について協議

- (6) 8020 推進財団助成歯科保健事業
歯科衛生士対象障害者診療講習会
について
上記講習会への参加について協議
- (7) 第 1 回一時保護施設入所児支援
歯科保健活動会議 (歯衛連) への対応
について
歯衛連への対応について協議
- (8) 学校保健関係情報の周知について
学校保健関係情報の確認を周知について
協議
- (9) ビューティフル歯ッション賞について
応募用紙の集計、表彰者選定方法
について協議
- (10) 節目年齢歯科健康診査事業の
事務手続きについて
節目年齢歯科健康診査の実施方法
についての確認と協議
- (11) シルバーウィークの休日歯科救急医療
について
長期休日救急担当医数について協議
- (12) 「だより」のアンケートについて
アンケート内容・方法について協議
- (13) FM ちゅーピーQ&A について
リスナーからの質問について協議
- (14) 咀嚼検出装置について
咀嚼検出装置の開発に協力するか
について協議
- (15) その他
特になし

「その他」
特になし

会員の皆様へ

広島市歯科医師会だよりに関するご意見やお問い合わせは、各記事に担当
部がある場合は、担当部の理事あてにお願いします。それ以外については、
広島市歯科医師会事務局ないしは広報部担当理事橋岡優までお寄せ下さい。

広島市歯科医師会事務局 E-Mail: hiroshima@dentalpark.net

広報部担当理事 橋岡優 E-Mail: s.d.c@helen.ocn.ne.jp